

Project 18	地域協働専攻 地域政策グループ HUEレインボーはこだてプロジェクト
メンバー	[学 生] 山鼻 涼 / 齋藤 幹晃 / 菅林 澄花 / 山口 慧司 [担当教員] 古地 順一郎
<p>【背景】 現代社会において、セクシュアルマイノリティの人々が抱く、生きづらさやその背景にある差別構造。</p> <p>【目的】 上記の背景を踏まえた上で、学生に何ができるのかを見出すこと。</p> <p>【概要】 活動の中では、セクシュアルマイノリティの人々の現状や、多様な性のあり方について知られていないのではないか？という仮説に基づき、さまざまな角度から啓発活動を行った。今年は、「表現する性」について「ドラッグ」をテーマにイベントを開催した。</p>	
<p>【プロセスと成果】 前期は文献講読、ドキュメンタリー鑑賞、「青森インターナショナルLGBTフィルムフェスティバル」への参加、イベント「虹をはいて歩こう」の準備、夏休みには「さっぽろレインボープライド」への参加などを行った。座学や実際の運動への参加を通して、イベントに向けて自分達が何をするのかということ考えた期間であった。 後期はイベントの実施・振り返りから始まり、文献講読、2月の「レインボーはこだてシアター」に向けての準備に費やされた。前期の議論やイベントに向けた準備期間を踏まえて、実際に啓発運動に動いた学期だったといえる。</p> <p>「虹をはいて歩こう」では、「表現する性」、とりわけ「ドラッグ」についてレインボーはこだてプロジェクト（RHP）の皆さんと共に考えた。ドラッグとは過剰な男装・女装を身にまとい、「男とは…」「女とは…」といったジェンダー規範を疑い、攪乱するパフォーマンスである。ドラッグとは何かということを知るため、学生自身も身をもってドラッグを試行し、さっぽろレインボープライドに参加した。イベント「虹をはいて歩こう」の中では、観客がドラッグに初めて接することを考え、予定していたインスピレーショントークの前に、講演者でもあるドラッグクイーン、てるまゑ・ノエビアさんにドラッグショーを披露していただいた。その後、てるまゑさんには、ドラッグとは何で、どのような歴史があるのかという点を話していただいた。最後に、てるまゑさん、本学でジェンダー論を教えられている木村育恵先生、市民団体「にじいろほっかいどう」の事務局長、国見亮佑さんの三者でトークセッションを行った。</p> <p>今年度の活動の中で達成できたことは大きく二つある。一つめは、「表現する性」という、セクシュアルマイノリティのみならず全ての人に関わる包括的なテーマを設定したことである。また、「表現する性」を市民に伝える手法として「ドラッグ」を選択したが、ドラッグショーやドラッグに関わるトークなど、「ドラッグ」という概念に馴染みのない市民でもアクセスしやすいようなコンテンツを作れたことである。二つめは学生の「さっぽろレインボープライド」の参加などから、ドラッグの歴史やその論理だけではなく、実際にどのような感覚で運動と関わっているのかを身をもって知ることができたことである。</p> <p>上の二つを考えると、テーマやイベント設計、イベント準備の間での学びという面で、幅を持った活動を行うことができた。</p>	



【「虹をはいて歩こう」の様子】



【「レインボーはこだてシアター」準備の様子】

【総括と反省・今後の課題】

総括として、我々は「学生は一体何ができるのか？」という問いに対して、二つの回答を出した。

一つ目は連帯することである。この連帯には二つの意味がある。セクシュアルマイノリティの人々に対して仲間であることである。それは理解したつもりでもなく、そして他人事になるわけでもない。現実に対してさまざまに学び、そして何ができるのかということに対して共に考えていくことだ。また運動において参画し、言挙げすることである。

二つ目は自由であることである。今回の活動ではドラッグを通して、表現する性とは何かということを考えた。先ほども書いたように、表現する性とは各々のプライドであり、尊厳である。そしてそれらを互いに認め合うことが互いに自由になること、自分らしくいられることにつながる。このような学びから、自他を認め、他者と共に自由になることが結論づけられる。

以上のような学びもありつつも、依然として課題は残った。主に四つ挙げられる。内容面では、ドラッグを切り口に表現する性について市民とともに考えてきたが、もっと表現ということを感じてもらう余地はあった。イベントではドラッグをショーから、アカデミックな視点から切り込んだが、その先に市民にとって、どのような実践の形があるのかということまでは踏み込めなかった。また、勉強の内容も基礎知識や歴史などに留まっており、過去から現在までの弾圧の事例など、さらなる勉強の必要性を感じた。形式的なところでは、予定の見通しの甘さ、そこを原因とした準備の遅れなどがあった。

【地域からの評価】

今回は活動を共にして下さったRHPのメンバーから評価をいただいた。以下では箇条書きで記述する。

- ・活動の中では楽しそうにやっていたし、熱量もあった。
 - ・1年間という中で十分な知識は吸収できたのではないかな。
 - ・積極的に色々なところに行ったこと、ドラッグを実際にすることなどを踏まえるといい活動だった。
- このように肯定的な意見をいただいたものの改善点などについても意見をいただいた。
- ・もう少し早めにいろんなことを決めておくと、もっと詰めたかったところを詰めることができたかもしれない。
 - ・ある程度自立してできるところは、大人の意見を頼らずにできるようになればいい。

これらの意見はどれも活動の中で痛感しており、次年度に活かしてほしいポイントである。改めて、ご意見いただいた皆様に感謝申し上げます。

【年間スケジュール】(毎週火曜日実施)

■前期

- 4月:オリエンテーション
- 5月:ドキュメンタリー鑑賞・ディスカッション
- 6月:森山至貴著『LGBTを読み解く』講読
- 7月:「青森インターナショナルLGBTフェスティバル」
「ゲイの人と焼きピロシキをつくって食べる会」
参加

■夏休み～後期

- 8月:札幌すすきのへ遠征・打ち合わせ
- 9月:「さっぽろレインボープライド」参加
- 10月:「虹をはいて歩こう」開催
- 11月:イベント振り返り
北丸雄二著『愛と差別と友情とLGBTQ +』講読
- 12月:2月のイベントに向けた準備
「ゲイの人と焼きピロシキをつくって食べる会」に
参加
- 1月:成果発表
- 2月:「レインボーはこだてシアター」を実施
活動の反省・引き継ぎ資料の作成

